



松本城

上高地 穂高岳と河童橋

長野県松本市・B型肝炎 予防のための取り組み

6歳児まで公費助成を拡大、 保育士等の抗体検査・接種費用も

長野県松本市はB型肝炎の予防接種・感染症対策の一環として、小児に対するB型肝炎ワクチン任意予防接種の公費助成対象年齢を6歳児まで拡大し、公立保育園・幼稚園の職員(以下、保育士等)に対する抗体検査と予防接種の費用を半額助成するなど、先進的な取り組みを行っています。このような取り組みを始めた経緯や事業の詳細について、松本市健康福祉部、こども部、市の保育士の方々にお話を伺いました。また、B型肝炎ワクチン接種の必要性について、山岸淳一郎先生(一般社団法人 松本市医師会 副会長/山岸医院 院長)にご解説いただきました。



長野県 松本市

| | |
|-----|-----------------------|
| 総人口 | 240,470人 |
| 世帯数 | 104,070世帯 |
| 面積 | 978.47km ² |

(平成29年5月1日現在)



松本市は、本州および長野県のほぼ中央に位置し、西には槍・穂高連峰、東には美ヶ原高原などの日本を代表する雄大な山々が連なります。400年以上の歴史を持つ城下町であり、北アルプスの玄関口として多くのアルピニストが訪れる「岳都」、スズキ・メソードやセイジ・オザワ松本フェスティバルに代表される音楽の「楽都」、旧開智学校や旧制松本高等学校当時から受け継がれてきた学問教育を重んずる「学都」の「三ガク都」を標榜しています。

出典 https://www.city.matsumoto.nagano.jp/shisei/sityo/shicho_goaisatu.html

松本市のB型肝炎ワクチン任意予防接種の公費助成 —独自の手厚い助成をなぜ実現できたのか

松本市では、平成26年度から、2歳未満児を対象としたB型肝炎ワクチン任意予防接種の公費助成を独自に実施してきました。平成28年10月からは国による0歳児を対象とした定期接種制度が始まり、B型肝炎という疾病も少しずつ認知されてきました。定期接種の開始と時を同じくして、松本市医師会から、未就学児までの助成対象の拡大および保育士等への任意予防接種の公費助成の要望が市に出されました。医師でもある松本市長の尽力もあり、市役所内の理解は得られやすかったものの、助成対象年齢を何歳まで拡大するか意見が分かれました。市は当初、「4歳児まで」の可能性も含めて医師会と協議していました。しかし、乳幼児期にB型肝炎ウイルスに感染するとキャリア化しやすいことや「保育園・幼稚園の子どもたち全員が

安心して過ごせる環境づくり」という考えが市役所内で浸透していたことから、幼稚園年長相当の6歳児までを助成対象とし（表1）、さらには保育士等にも助成を実施することで子どもを取り巻く環境も含めてカバーしようという結論に至りました。「市としては、子どもの将来と安全を守るためにも、また積極的に子育てをサポートするためにもB型肝炎ワクチン接種の推進が重要と考えています。この取り組みを通して、市民の健康づくりを推進し、安心して暮らしていただける街づくりを目指します。」



松本城とアルプス

（松本市健康福祉部：田中正一氏）

表1 松本市のB型肝炎ワクチン予防接種事業の概要（平成29年度～）

| 制度 | 定期予防接種 | 任意予防接種 |
|------|------------|------------------------------|
| 対象者 | 1歳誕生日前日まで | 1歳～年長相当まで (小学校就学前3月31日まで) |
| 助成費用 | 全額公費負担 | 2,500円×3回(一部助成) |
| 開始時期 | 平成28年10月から | 平成29年4月から |

松本市提供資料より作表

「健康寿命延伸都市・松本」の実現に向けて

樋口 浩 氏 (松本市健康福祉部長)



松本市は超少子高齢型人口減少社会を見据え、市民一人ひとりの命と暮らしを大切に考え、誰もがいきいきと暮らせるまちづくり「健康寿命延伸都市・松本」の創造を進めています。

小児への予防接種を推進することは、未来を担う子どもたちを感染症の脅威から守るだけでなく、保護者が安心して子育てできる環境を整え、「健康寿命延伸都市・松本」の

創造につながるものであると考えます。

松本市は従前から「子育て支援」「健康づくり」「危機管理」を重点施策とした3Kプランを掲げてまちづくりを進めてきた経過があり、今回のB型肝炎ワクチン任意予防接種の公費助成拡大もその一環として、子育てしやすいまちづくりを目指す上で必要な事業であると考えております。

さまざまな啓発活動で公費助成の活用を後押し

平成29年度より助成対象を拡大した、B型肝炎ワクチン任意予防接種の公費助成の制度を一人でも多くの方に活用していただくため、松本市ではさまざまな方法で啓発を行っています。市の広報誌や育児情報を扱うフリーペーパーに特集記事を掲載したほか、院内掲示用の啓発ポスターを作成して医療機関に協力を仰ぎました。さらに、助成対象でありワクチン未接種の子どもがいる世帯にはB型肝炎ワクチンや疾患そのものへの理解を深めていただくための小冊子を同封した通知を個別に送付しました(図1)。こうした啓発活動が功を奏したのか、B型肝炎ワクチンに関する基本的な問い合わせはほとんどありませんでした。「保護者の方々も興味を持って自ら積極的に情報を収集なさったと思います。そのうえで、B型肝炎や肝がんなど疾病についての踏み込んだ質問をされる保護者も増えて、市民の方々の意識や関心が高まったことを実感しています。」(松本市健康福祉部：齋藤睦恵氏) また、接種日と生年月日から該当する助成の内容を照らし合わせるためのフローチャートを作成し(図2)、市や保健センターの担当者に配布しました。これにより保護者からの問い合わせ時にスムーズな案内が可能となり、助成事業の開始直後にも窓口業務に大きな混乱はみられず、正しい情報を迅速に保護者の方々に

伝えることができました。

今回の助成対象の拡大には保育士等も含まれるため、健康づくり課(健康福祉部)と保育課(こども部)との連携が重要となります。B型肝炎ワクチン未接種の保育士等が大半であり、公費助成があるにもかかわらず接種に至らないケースも懸念されたため、保育士等向けの説明会を開催し、ワクチン接種が求められる理由や、助成事業開始の経緯などについても伝えました。説明会后には「大人はB型肝炎に感染しないものだと思っていたが、予防する必要があることがわかった」といった声も聞かれ、意識改革につながりました。



図1 助成対象の子どもがいる世帯への個別通知一式



図2 B型肝炎ワクチン予防接種対象者の照会用フローチャート

提供 松本市健康福祉部 健康づくり課

保育士のみなさんの声 (公費助成制度を活用し接種した方々へのアンケート*結果より) ※松本市 こども部 保育課で実施

B型肝炎に対する知識がなかったため、ワクチンによる予防が重要だという認識はありませんでした。昨年度の保健協議会研修会に出席してから、重要性を理解しました。病気の恐ろしさを知ったこと、公費負担があることが接種のきっかけになりました。接種してからは、自分が感染しないことはもちろん、保育園にきているお子さんや、自分の家族を守るためにも大事だと感じるようになりました。

今まではB型肝炎ワクチン接種を必要と感ずることや、感染の危険性を感じることもありませんでした。ほとんど知識もなく、他人事のように感じていました。園長先生を通じて、職員会で助成

制度を知ったあと、園児や自分の子どもたちを守るためにも、接種をした方がよいかと感ずるようになりました。接種後は意識はあまり変わりありませんが、少し安心かな、と思います。



撮影協力：松本市神田保育園

ワクチン接種の重要性については、あまり認識する機会がありませんでした。正直、もう年も重ねているし、接種する必要があるのかなと思っていました。しかし、今回接種事業のことを知り、自分の体の事を改めて考えてみようと思いました。自分の身を守ることは、一緒に生活する子どもたちを守ることもなると意識できました。B型肝炎ワクチンの公費助成事業についてはもっと広まり、保育士も自分の身を守ることや子どもたちの安全につながることを知っていけばよいと思いました。



私たち保育士は、日々子どもに接する職業であるため、感染するリスクがあると同時に、子どもたちを感染から守るためにも、みんなでワクチン接種を行うべきだと思います。公費で予防接種の補助が受けられると、少ない自己負担で接種ができます。保育に関わる職員が、安心して保育の仕事ができることがありがたいと思いました。このような松本市の取り組みが他の自治体にも広がっていくことが望ましいと考えます。

医師の視点で考える B型肝炎ワクチンの接種意義と 松本市の取り組みについて



山岸 淳一郎 先生

一般社団法人 松本市医師会 副会長
山岸医院 院長

保育士など、成人へのB型肝炎ワクチン接種の必要性について教えてください

山岸先生 B型肝炎ウイルス(以下HBV)に感染するリスクがあるのは医療従事者だけではありません。B型肝炎は持続感染しても自覚症状が乏しいため、気づかぬうちに感染してしまったり、また自分が感染源となっていることもあります。HBVの感染経路には、血液や体液(尿、唾液、涙、汗など)による水平感染もあるため、特にHBVキャリアの方の血液や体液に触れる可能性が高い職種の方々は、ワクチン接種により感染予防を図ることが重要です。

HBVは8つの遺伝子型に分類されますが、特に遺伝子型Aによる急性肝炎が近年増加しています。一般に、成人期にHBVに感染すると急性肝炎を起こし、その後HBVは排除され肝炎は治癒すると考えられていました。しかし、遺伝子型Aは成人でも急性肝炎の後に慢性化してしまう可能性があり、将来の肝硬変や肝がんのリスクを負うこととなります。

予防接種には、個人防衛と社会防衛の2つの役割があります。ワクチンを接種することで自分自身への感染を防ぐことができるのが個人防衛の側面です。一方で社会防衛の側面としては、B型肝炎ワクチンの定期接種の対象となった0歳児であっても何らかの理由でワクチンを接種できない子どももいるでしょうし、1歳以上では未接種の子どもが大半です。周囲の皆さんがワクチンを接種することで、そのようなワクチン未接種者をも守ろうというのが社会防衛の考え方です。松本市で公立保育園の保育士、幼稚園の教諭へのB型肝炎ワクチン任意予防接種および抗体検査が公費助成の対象となったことは、上記の観点から非常に有益なことと考えられます。

小児へのB型肝炎ワクチン任意予防接種の公費助成についてのお考えを教えてください

山岸先生 松本市では、B型肝炎ワクチン定期接種化(平成28年10月～)に先行する形で、平成26年度より2歳未満児を対象に任意予防接種の公費助成を実施していました。国が定める定期接種の対象は0歳児であることから、松本市は自治体独自で助成対象をさらに広げる検討を行い、平成29年度からは小学校入学前の6歳児まで助成対象を拡大しました。免疫機能が未熟なうちにHBVに感染すると、ウイルスを体外に排除できず、キャリア化しやすくなります。キャリア化する率は年代ごとに異なり、最もリスクが高いのは1歳未満です。しかし、それ以上の年齢でもリスクが全くないわけではありませんので、ワクチン接種で予防を図ることが望ましいと考えられます。

松本市医師会と行政との連携について教えてください

山岸先生 松本市は2017年に市政施行110年を迎え、松本市医師会も設立110年を迎えます。市と医師会は、医療や介護、福祉の分野における「車の両輪」として連携を深めてきた歴史があります。

予防接種に関しては、毎年数回「予防接種懇談会」を開催し、市の担当者や予防接種に携わる医師らが集まって予防接種事業を円滑に推進するための活発な意見交換を行っています。ワクチンの供給状況や感染対策に関する情報なども互いに共有しており、こうした長年積み重ねてきた議論や信頼関係により、松本市では予防接種の重要性への理解が浸透しています。特に今回のB型肝炎ワクチン任意予防接種の公費助成は、全国的にみても先進的で、同疾患の予防に大きく貢献できると期待しています。今後は市と医師会で協力して、疾患やワクチン接種の重要性について、保育士など成人の接種対象者に積極的に啓発していくと同時に、地域の開業医の意識も高めていく必要があると考えています。

地域包括医療が求められる現在では、予防接種だけでなく、健診や介護、災害医療など、さまざまな分野で多職種連携による取り組みが重要になります。そのためにも、行政と医療が顔をあわせ、信頼関係を築いていくことが大切だと考えています。

MSDカスタマーサポートセンター

医療関係者の方(MSD製品全般) 0120-024-961
(ワクチン専用) 0120-024-797
受付時間: 9:00-17:30(土日祝日・当社休日を除く)



製造販売元【資料請求先】

MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北1-13-12 北の丸スクエア
Tel.(03)6272-1001 Fax.(03)6272-9136
<http://www.msd.co.jp/>

2017年7月作成
HB2170T010-0719